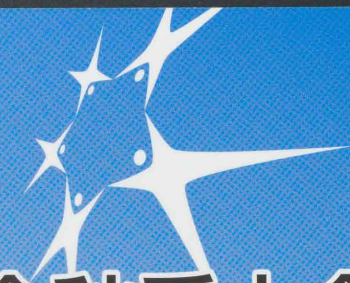




Japanese Society for the Study of Social Welfare

日本社会福祉学会

日本社会福祉学会第60回大会秋季大会



開催のご案内

大会テーマ

「日本社会の再生と社会福祉学の役割

—人・地域・制度のつながりにおける社会福祉の領域と境界—」

日時・場所

2012年10月20日(土)～21日(日)

関西学院大学 西宮上ヶ原キャンパス

第60回秋季大会事務局（関西学院大学）

〒662-8501 兵庫県 西宮市上ヶ原一番町 1-155

受付窓口

株式会社ガリレオ 学会業務情報化センター内
社) 日本社会福祉学会 第60回秋季大会事務局

〒170-0004 東京都豊島区北大塚 3-21-10 アーバン大塚 3階

FAX : 03-5907-6364

E-mail: taikai.jsssw@ml.gakkai.ne.jp

大会ホームページ URL: <http://www.gakkai.ne.jp/jsssw/60/>



日本社会福祉学会 第 60 回秋季大会

10月20日(金) 上ヶ原キャンパス、G 棟

会場 上ヶ原キャンパス

日本社会の再生と社会福祉学の役割

一人・地域・制度のつながりにおける社会福祉の領域と境界

大会開催に向けて

日本社会福祉学会 第 60 回秋季大会 大会長
関西学院大学 芝野松次郎

この度、関西学院大学上ヶ原キャンパスにおきまして日本社会福祉学会第 60 回秋季大会を開催するにあたり、歓迎のご挨拶とご案内を申し上げます。

関西学院大学人間福祉学部は 4 年前（2008 年）に誕生した新しい学部ですが、60 年になんなんとする本学社会福祉教育の伝統を継承する社会福祉学科に加え、新たに地域福祉や国際福祉の問題解決に貢献する社会起業学科、そして心身の健康の向上に貢献する人間科学科とを設置し、スタートいたしました。キリスト教主義教育に基づく人への思いやり、広い視野と高度な問題解決能力を身につけた人材の育成に努めております。

さて、第 60 回秋季大会は、その総合テーマを「日本社会の再生と社会福祉学の役割」といたしました。共生社会の再生は、今日の社会福祉学にとって大きな課題となっています。社会福祉学は、社会の再生を研究することを通して、高齢者福祉、障害者福祉、児童家庭福祉などにおいて、深刻化し複雑化するさまざまな問題の解決を図ろうとしてきました。折しも、昨年 3 月 11 日に東日本を襲った大地震は、直後の津波によって多くの尊い命を奪い、原発事故は多くの人びとの生活の場をも奪いました。人びとの生活と社会の仕組みが根底から崩れたと言えます。震災後、1 年が経過した今もなお多くの人びとが苦しんでおられます。復旧・復興を越えた社会そのものの再生を必要としているのです。東日本大震災と原発の事故は、被災地に留まらず、共生の基盤が失われた日本の社会全体の再生のあり方を、今一度根本的に見直すことを求めています。そして、こうした社会の再生における社会福祉学の役割もまた問われています。本大会では、これまで積み上げてきた社会福祉学の知と技を、日本社会の再生において如何に活用し、また新たな知と技を如何に蓄積し、役立てて行けばよいのかについて、さまざまな角度から考えたいと思います。

関西学院上ヶ原キャンパスは、大阪の西に隣接する西宮市の中南部に位置しています。六甲山に連なる甲山の麓に広がる自然豊かな地に、スパニッシュミッションスタイルで統一された建築群が配された人にやさしく美しいキャンパスです。阪神間モダニズムを継承するキャンパスを満喫していただきながら、心置きなく研究成果の共有と社会的交流をしていただけるように、教員、スタッフ一同、励んで参りたいと思っております。多くの会員のみなさまのご参加をお待ちしております。

日本社会福祉学会第60回秋季大会の概要

第60回秋季大会 実行委員長
 関西学院大学 牧里 每治

1. 大会テーマ

日本社会の再生と社会福祉学の役割

一人・地域・制度のつながりにおける社会福祉の領域と境界

2. 大会挨拶

日本社会福祉学会第60回秋季大会へ参加して下さる会員の皆さんを心から歓迎いたします。

ここ人間福祉学部のある上ヶ原キャンパスは、美しい学舎と緑の樹木に囲まれた、学園にふさわしい環境と評判を得ております。このキャンパスに会員の皆さまをお迎えすることは我われ実行委員をはじめ学部教員の喜びとするところです。

昨年度に完成年度を迎えたばかりの若い学部ですが、3学科からの会員有志を中心に編成された実行委員会が大会の準備に当たってきました。開催校としては久しぶりの慣れない大会開催なので、何かと不便、不自由をおかけするかもしれません。ご参加いただく会員の皆さんの満足のいく対応ができるかどうか心配なことも多々ありますが、精一杯、心を尽くした応接や準備に努めてまいります。

大学周辺に食事を摂る場所がほとんど無く、高台に位置するキャンパスであるため坂道を登っていただかなくてはならず不便をおかけすることになります。また遠方から来校される方には、大阪、神戸、宝塚などに宿泊していただかなければならないことも気がかりです。

ともあれ、天候に恵まれ、多くの方々の大会参加を望むばかりですが、皆さまと元気な姿で再会できること、充実した学術研究交流ができることを楽しみにしております。

大会開催にあたり、大会実行委員会を代表して歓迎のご挨拶とさせていただきます。

3. 大会日時 2012(平成24)年10月20日(土)～21日(日)

4. 大会会場 関西学院大学 上ヶ原キャンパス [西宮市上ヶ原一番町 1-155]

5. 主催 一般社団法人 日本社会福祉学会
 日本社会福祉学会第60回秋季大会 実行委員会

6. 共催 関西学院大学

大会日程(1日目)

10月20日(土) 会場: 関西学院大学 上ヶ原キャンパス G号館

9:00	受付開始
9:30~12:00	若手研究者のためのワークショップ 研究倫理委員会特別企画研修
12:00~13:00	昼食
13:00~13:30	開会式
13:30~14:30	大会記念講演
14:45~17:15	学会企画・国際学術シンポジウム 口頭発表A 特定課題セッション
18:00~20:00	情報交換会 [関西学院会館]

【記念講演】

演題: 「日本社会の再生と社会福祉学の役割

—東日本大震災後の復興を通して日本社会の再生を考える—

講師: 室崎益輝氏 関西学院大学総合政策学部教授・災害復興制度研究所所長

【研究倫理委員会特別企画研修】

テーマ: 「研究論文における研究倫理上の課題と指導方法を学ぶ」

基調講義: 二木 立 (日本福祉大学)

報告1: 柴田 謙治 (金城学院大学)

報告2: 藤井 博志 (神戸学院大学)

報告3: 上野谷 加代子 (同志社大学)

コーディネーター: 加藤 幸雄 (日本福祉大学)

※敬称略

本学会には、実務者から研究職になられた方が多くいます。しかし、学会発表や論文投稿、あるいは研究指導において、研究倫理をふまえた論文の書き方、指導方法について、上記のような方が学ぶ機会は限られています。この企画では、実務者出身に限定せず広く会員を対象に、研究に関わる作法を学び合います。

研究論文執筆の基本的な姿勢や倫理的配慮については、本学会の研究倫理指針に示されています。この内容は、いわば最低限のルールです。学会ニュースNo.58(2011.9.30)で示してあるように、社会的弱者とされる人への最善の利益、インフォームドコンセントに関わる条項、「説明と公開」「公共の利益」「利益相反」チェック機能等について検討し、さらに研究倫理の質を高めていく必要があります。

基調講義を受け、論文査読、研究方法の模索、研究助成等の視点から問題提起を行います。参加者からも、例えば被災地調査方法、留学生指導のあり方等多様な視点の提供をお願いしたいと思います。

【日韓国際学術シンポジウム】 (学会企画シンポジウム)

総合テーマ:「多様性と人権、そして社会福祉教育の課題」

サブテーマ:多様な福祉問題の解決と支援の方法論をめぐって

シンポジスト: 日本:2名 (調整中)

韓国:2名 (調整中)

中国:2名 (調整中)

コーディネーター:野口 定久 (日本福祉大学)

包 敏 (広島国際大学) ※敬称略

いま、日本社会は、多重苦(大震災の復興の遅れ、デフレ不況、超高齢少子化、人口減少等々)の只中にあります。このような環境の中で、社会福祉教育にとって、多様化する福祉ニーズと福祉サービス利用者の権利擁護に対応しうるような社会福祉援助(ソーシャルワーク)の技術開発、福祉・介護専門職の人材養成と職域の拡大、福祉・介護現場での配置が喫緊の課題となってきました。政府は、これから成長する新産業として環境・医療・福祉・介護などの分野を位置づけ、とりわけ福祉・介護分野への人材確保や職域拡大、待遇改善等の政策を打ち出しています。それに応える意味でも、多様な福祉問題の解決と支援の方法論をめぐって社会福祉教育に求められる「実践力」として、解決策に関する仮説を立て客観的事実に基づき検証できる能力を高め、他の専門職と協力してチームワークで業務を推進する力量の蓄積が求められています。本シンポジウムでは、社会福祉教育における同様の課題を抱える日本・韓国・中国において福祉ニーズの多様性とサービス利用者の権利擁護を中核に据えた社会福祉教育の課題と展望を探ります。

【若手研究者のためのワークショップ】(大会校プログラム)

ワークショップ1:「質的調査研究ワークショップ」(定員無し)

ワークショップ2:「量的調査研究ワークショップ」(定員無し)

ワークショップ3:「コミュニケーションラボ体験」(定員24名、申込み先着順)

本ワークショップは、開催校である関西学院大学で提供する独自のプログラムであり、若手研究者(この場合の若手研究者とは、年齢に関係なく、大学院生や研究歴の浅い研究者を指します)を対象にしたものです。量的調査研究及び質的調査研究のワークショップ1,2は、若手研究者の研究手法の知識や技術の向上を目的としたものです。一人の若手研究者の研究内容の発表をもとに、各研究手法の専門家である2人の指導者によってその場でライブの研究指導を行います。その後、参加者と質疑応答を行う予定にしています。

コミュニケーションラボ体験のワークショップ3は、ビデオ等のAV機器で構成されたコミュニケーションラボ・システムを活用して、相談援助場面におけるコミュニケーションスキルのトレーニングを体験します。また演習等におけるこうした手法の活用法についてのディスカッションも行います。なお、ワークショップ3は会場の収容能力の問題で、定員制(申込み先着順 4/20 am9:00~申込み開始)になっていますことにご注意下さい。

大会日程(2日目)

10月21日(日) 会場:関西学院大学 上ヶ原キャンパス G号館

9:00 受付開始

9:30~12:00 震災特別企画シンポジウム

口頭発表B

ポスター発表A

12:00~12:50 昼食・理事会

12:50~13:50 学会賞授賞式・学会総会

14:00~16:30 大会校企画シンポジウム

ポスター発表B

16:30 終了

【震災特別企画シンポジウム】(学会・開催校企画)

テーマ:「提言:生活の再建に向けた社会福祉学の役割」

シンポジスト:高橋 了 (石巻市渡波地域包括支援センター)

千管英理子 (前大槌町地域包括支援センター)

高橋 敏徳 (釜石市民生委員協議会)

阿部 祐二 (東北福祉大学)

コーディネーター:都筑 光一 (岩手県立大学)

コメンテーター:岡部 卓 (首都大学東京) ※敬称略

被災者が仮設住宅等に入居し、生活環境をとりあえず確保して一年になります。この間被災者は、今後の家族との生活の姿について模索してきました。こうした状況において、社会福祉の分野からこれまでどのような支援を行ってきたのかを検証し、震災時における社会福祉の役割を探ります。

【大会校企画シンポジウム】

テーマ:「日本社会の再生と社会福祉学の役割

一人・地域・制度のつながりにおける社会福祉の領域と境界」

シンポジスト:勝部 麗子 (豊中市社会福祉協議会)

福原 宏幸 (大阪市立大学)

永岡 正己 (日本福祉大学)

コーディネーター:牧里 每治 (関西学院大学)

コメンテーター:岩崎 晋也 (法政大学) ※敬称略

世界的な経済不安や新たな貧困の問題など課題が重層化する今日において、未曾有の被害と打撃を我が国にもたらした東日本大震災。日本の国民全体がその再生を模索している時に、社会福祉に携わる私達は、国の施策・制度の動きを注視しつつ、人、地域のつながりの中で、社会福祉学の軸となる論理とその具体的展開を改めて明確にすることを希求しています。

本開催校企画のシンポジウムでは、「人々の生活」を支える社会福祉学の役割を問い、学

問・実践の領域とその境界を見据えた議論を目指します。そこでは、社会福祉的支援の実践から汲み上げる視点、日本社会の関係性の特質から理論歴史的に考察する視点、学際的に経済学的側面からその接点を探る視点、の3つを合わせながら、社会福祉の分断化した側面を横断し、その役割を包括的に俯瞰するための時間を共有したいと考えています。

■ 昨年度の第59回大会からの事務上の変更点 [重要]

※その1 大会要旨集を大会HP上で事前公開し、終了後も学会HP上で公開します

これまで大会の要旨集は、CD-ROM版として作成していました。しかし発表辞退など、当日まで変更が発生し、最終的には大会HP上で要旨集の確定版を公開しておりました。そのため、せっかく作成したCD-ROM版は、暫定的な内容を反映したものとなっていました。そこで、要旨集は大会HP上で常に最新情報を反映したものを公開することといたしました。その結果、これまで事前申込み者しか閲覧できなかった要旨集を、だれでも閲覧することができ、大会終了後に確定版となった要旨集は、学会のHPのアーカイブとして保存し、過去の大会要旨集の更なる利用につなげます。

なお、インターネットを利用することが困難な方には、実費でWEB上の要旨集データをCD-ROMにコピーしたものを送付いたします。参加申込みの代行業者である「株式会社ガリレオ 学会業務情報化センター」まで、会員番号、住所、氏名、電話番号を明記の上、FAX(03-5907-6364)または郵便でご連絡下さい。

※その2 大会プログラムの事前送付を止めるなど経費を削減し、大会参加費を値下げします

—昨年大会までは、大会1ヶ月前(9月中旬頃)に「大会プログラム」と「大会要旨集CD-ROM版」を送付しておりました。しかし、大会要旨集の大会HP上での公開に伴い、大会プログラムもHP上で公開し、「大会プログラム」の事前送付を、原則として行わないことにいたします。これまで、「大会プログラム」に掲載していた、詳細な大会日程と会場、研究発表(口頭発表・ポスター発表・特定課題セッション)の発表者・タイトル・会場、詳細な会場へのアクセス等は、確定し次第、順次「大会ホームページ」に掲載いたします。詳細な大会プログラムの公開は9月中旬を予定していますが、公開時には、メール(メールアドレスの登録がなく郵便等でのご連絡を希望されている方は郵便)でのご連絡をいたします。

このような経費の削減を行うことで、会員と非会員の参加費を1000円、学生の参加費を3000円、それぞれ値下げしました。また、「学生会員」として事前に登録した大学院生等の参加費を免除いたします。なお、大会当日の受付では、日程・シンポジウム資料・分科会一覧、会場案内図等を記載したものを配布資料としてお渡しします。

※その3 大会発表申込み資格を、5月末入会までOKとします

前回大会より、大会発表申込み資格を、5月末入会までOKといたしましたが、本大会においても5月下旬までの入会を受け付けます。5月末に開かれる予定の理事会で入会審査を行いますので、5月20日(必着)までに学会事務局宛に入会申込書をお送りください。

※皆様にはいろいろとお手数をお掛けしますが、ご理解とご協力をお願いいたします。

参加申込みのご案内

大会参加申込みの手続きは、すべて「株式会社ガリレオ 学会業務情報化センター」が取り扱います。申込み、変更、取り消し等は、前年度同様インターネットを利用したオンライン登録です。

[大会ホームページアドレス <http://www.gakkai.ne.jp/jsssw/60/>]

オンライン登録が困難な方は、必要事項を明記の上、FAXにてお申込み下さい。

[大会受付用FAX: 03-5907-6364]

		事前申込み 8月31日(金)まで	大会当日
大会参加費	会員	7,000円	9,000円
	非会員	8,000円	9,000円
	大学院生・学部生	3,000円	4,000円
	※「学生会員」登録者	参加費のみ免除	参加費のみ免除
昼食弁当(お茶付き)	[事前申込みのみ]	1食1,000円	当日申込みは不可
情報交換会	[事前申込みのみ]	5,000円	当日申込みは不可
託児サービス	[事前申込みのみ]	1日4,000円	当日申込みは不可

※「学生会員」登録者とは、正会員の内、大学院生等の学生が、毎年5月末までに所定の手続きをして得られる会員身分です。この会員身分に登録された方は、その年の秋大会の参加費が免除され無料になります。登録方法は「日本社会福祉学会」のホームページをご覧ください。

※「大学院生・学部生」及び「学生会員」登録者は、大会参加受付で学生証の提示が必要です。

■ 参加の申込み・参加費の払込み 事前申込みの締切 8月31日(金)まで

オンラインによる参加登録ですので、登録完了後に「銀行振込」にて指定口座にお振り込み下さい。入金が8月31日までにない場合は、大会当日参加の金額(9,000円)を事前にお支払いいただくこととなりますので、ご注意ください。なお、今年度も「クレジット支払」はありません。

指定口座: みずほ銀行 四谷支店 (普通) 1200764

口座名義: 一般社団法人日本社会福祉学会 シャ)ニホンシャカイフクシガツカイ

■ 発表者(口頭発表・ポスター発表・特定課題セッション)の申込み・参加費払込み

研究発表者は必ず8月31日(金)までに参加費を払い込み下さい。入金が8月31日までにない場合は、大会当日参加の金額(9,000円)を事前にお支払いいただくこととなりますので、ご注意ください。

■ 昼食について

大会1日目(10月20日)は、大学生協の食堂等が開いておりますので、そちらをご利用ください(食堂の場所等の詳細は、9月にお知らせします)。

大会2日目(10月21日)も大学生協の食堂が開いておりますので、できる限りそちらをご利用ください。なお、昼食時に委員会の会合等があり、弁当が必要な方に対しては、事前申込みをされた方のみ弁当を手配します。大学周辺には、生協の食堂等以外には、コンビニ程度しかないので、予めご了承ください。

■ 情報交換会について

情報交換会は、日頃あまり接する機会が少ない他の研究者との重要な情報交換の機会です。参加費は、5,000円です。会場は、キャンパス内にある関学会館です。若い研究者や大学院生など、皆様のご参加をお待ちしております。参加ご希望の方は、大会参加申込みと併せて事前登録をお願いいたします。

■ 託児サービスについて

託児サービスを実施します。ご希望の方は、大会参加申込みと併せて事前登録をお願いいたします。サービスを提供する時間帯は、大会1日目は9時から17時半[1日]、2日目は9時から17時[1日]となります。詳細につきましては、大会事務局(関西学院大学)よりご連絡させていただきます。

■ 手話通訳・要約筆記について

開会式・記念講演・国際学術シンポジウムでは「手話通訳と要約筆記」、情報交換会・開催校企画シンポジウムでは「手話通訳」を配置します。研究発表では「要約筆記」による個別対応を行います。

研究発表(口頭発表・ポスター発表・特定課題セッション)・情報交換会・開催校企画シンポジウムの会場において「要約筆記」をご希望の方は、大会参加申込みと併せて事前登録をお願いいたします。

■ 若手研究者のためのワークショップ3(コミュニケーションラボ体験)の事前申込みについて

大会1日目の午前中に開かれる若手研究者のためのワークショップの1つであるコミュニケーションラボ体験については、教室及び器材の関係上、誠に申し訳ありませんが、24名しか受け入れることができません。従って、24名の定員枠を設けさせていただくこととなります。申込みによる先着順と致しますので、大会への事前参加申込みの際に、ホームページを通して、別途、本ワークショップのお申込みをお願いいたします。

なお、ワークショップ3のお申込みのみ、4月20日(金)am9:00より受付開始致します。お間違えのないようお申込みください。

発表申込みのご案内

発表区分	申込み方法	締切日
研究発表 ・口頭発表 ・ポスター発表 ・特定課題セッション	ホームページよりオンライン申込み	6月18日(月)24時 (発表申込み及び掲載原稿とも)
	郵送による申込み (オンライン申込みができない場合のみ)	6月11日(月)当日消印

■ 発表の名称の変更のお知らせ(重要)

前回の第59回大会までは、「自由研究発表」という名称が使用されていましたが、本大会から、自由研究発表を「口頭発表」という名称に変更したので、ご注意ください。

■ 発表の申込み資格

研究発表(口頭発表・ポスター発表・特定課題セッション)の応募資格は、2012(平成24)年5月現在、日本社会福祉学会の会員であることが前提です(新規入会申込書は、5月20日学会事務局到着分まで受付します)。応募される時は必ず「会員番号」を明記して下さい。1名でも会員番号の記載がない場合は受理できません。

また、発表の申込みをした会員(連名者も含みます)は、8月末までに「2012年度の会費」を納入する必要があります。未納の場合、発表を取り消す場合があることをご承知おください。

■ 発表件数

発表は、1会員1演題(口頭発表・ポスター発表・特定課題セッションのすべてを含む)に限ります。したがって、演題の申込みは必ず筆頭発表者(ファースト・オーサー)が行なって下さい。演題の申込者と筆頭発表者が異なる場合は受理できません。なお、発表とは別に、他の研究発表等で共同研究者として名前を連ねることは可能です。

口頭発表について、同一テーマによる発表は「その(1)」「その(2)」までとします。ただし、ルールは1テーマ1発表なので、「その(1)」「その(2)」が認められるのは、内容が別の研究と認められる場合に限りです。

■ 発表の日時・会場の決定

大会実行委員会が日時と会場を決定します。日時指定でお申込みいただくことはできません。詳細は決まり次第に、「大会ホームページ」(9月上旬を予定)に公開します。

■ 研究発表にあたっての注意事項 [重要]

- ・プロジェクトを用いたパワーポイント等の使用について
昨年の大会と同様、本大会でも物理的な条件を十分に保障できないため、プロジェクトを用いた発表はできません。
- ・口頭発表(分科会)での全体総括について
昨年の大会と同様、本大会でも各分科会の後半において、「全体総括」の時間を設定します。したがって、各発表の筆頭発表者は、分科会終了まで会場を退席することはできませんので、ご了承ください。

■ 掲載原稿の様式及び研究倫理の点について

掲載原稿の様式が指定したものと違う場合、研究倫理の点から発表にそぐわないと実行委員会が判断した場合は受理いたしません。本冊子16～17ページの掲載原稿の様式、及び18～19ページの本学会「研究倫理指針」を確認の上で、原稿を作成して下さい。当日の配布資料についても、「研究倫理指針」を確認のうえで作成して下さい。

■ 配布資料について

発表者で資料を配布される方は、各自80部を当日持参して下さい。大会事務局では、印刷・コピー業務は対応できませんのでご注意下さい。

■ ポスター発表について

「ポスター発表」に「司会者」は配置しません。ポスター発表者は、指定された時間にポスターを掲示し、さらに指定された「質疑応答時間帯」(1時間)に必ずポスターの前に待機して下さい。

■ 発表が成立する条件について

「口頭発表」及び「特定課題セッション」は、原則、本人が発表した上で、分科会の開始から終了まで筆頭発表者が参加することで「発表成立」とします(途中退席は不可)。

「ポスター発表」は、指定された時間にポスターを掲示し、さらに指定された「質疑応答時間帯」に発表者が待機していることを、実行委員会が確認したことで「発表成立」とします。

■ 著作権について

本大会で発表が承認された研究発表(口頭発表・ポスター発表・特定課題セッション)の要旨集に関する著作権は、日本社会福祉学会に帰属します。

■ 要旨集掲載原稿について

要旨集掲載原稿については、次ページからの「研究発表申込み要領」に基づいて作成してください。提出後の原稿の差し替えはできませんので、ご注意ください。また、本大会から「5. 考察」部分が追加されたので、考察部分まで必ず記述してください。

※ 参加申込みや発表申込み等に関する受付事務や問い合わせは「ガリレオ学会業務情報化センター」が行います。毎週月曜日から金曜日に E-mail の確認をいたします。場合によっては返信までお時間を頂くことがありますので、あらかじめご了承下さい。
 なお、参加申込みや発表申込み等に関する事務について、日本社会福祉学会事務局、大会事務局(関西学院大学)では取り扱いませんのでご注意下さい。

【受付窓口】

〒170-0004
 東京都豊島区北大塚3-21-10 アーバン大塚3階
 株式会社ガリレオ 学会業務情報化センター内
 日本社会福祉学会 第60回秋季大会 係
 Fax : 03-5907-6364 E-mail : taikai.jsssw@ml.gakkai.ne.jp

研究発表申込み要領

1. 口頭発表 (前回大会までの「自由研究発表」を名称変更)

■ 応募方法

インターネットによるオンライン応募[締切日: 6月18日(月)24時(オンライン申込み)]となります。大会ホームページ(<http://www.gakkai.ne.jp/jsssw/60/>)の応募画面から必要事項を記入して応募して下さい。詳細はホームページをご参照下さい。

応募が完了すると自動的に指定した E-mail アドレスへ「完了メール」が届きます。完了メールは、「演題受付番号」が記載されておりますので、大切に保管しておいて下さい。

なお、オンラインによる応募ができない場合のみ、郵送による申込みを受付けます。掲載原稿のデータをフロッピーディスク、CD-R、USBメモリーのいずれかに入力し「ガリレオ学会業務情報化センター 日本社会福祉学会第60回秋季大会係」へ送付して下さい。締切日は[6月11日(月)当日消印有効]となりますのでご注意下さい。送付されたデータは、原則として返却いたしません。返却希望の場合は、返却先を記入した返信用封筒(切手貼付)を同封し、返却希望を明記して下さい。

■ 発表分野

発表分野は次の通りですので、希望分野として第1から第3希望を選択してお申込み下さい。ただし、各分野の応募件数と会場の都合により、希望した分野以外に変更させていただく場合がありますことをご了承下さい。なお、「特定課題セッション」を第2希望、第3希望とすることはできません。

- | | |
|---------------------|--------------------|
| 1. 理論・思想 | 13. 社会保険(年金、医療、介護) |
| 2. 歴史 | 14. 医療保健・医療福祉 |
| 3. 制度・政策 | 15. 司法福祉・更生保護 |
| 4. 方法・技術 | 16. 社会福祉教育・実習 |
| 5. 児童福祉 | 17. 福祉マンパワー |
| 6. 家族福祉 | 18. 震災・災害福祉 |
| 7. 障害(児)者福祉(精神障害含む) | 19. 特定課題セッションⅠ |
| 8. 高齢者保健福祉 | 20. 特定課題セッションⅡ |
| 9. 女性福祉・ジェンダー | 21. 特定課題セッションⅢ |
| 10. 地域福祉 | 22. 特定課題セッションⅣ |
| 11. 国際社会福祉 | 23. 特定課題セッションⅤ |
| 12. 貧困・低所得者福祉 | |

「特定課題セッションⅠからⅤ」を第1希望にする方は、第2希望、第3希望は発表分野の「1～18」から選択して下さい。「特定課題セッション」で不採択の場合は、「口頭発表」として報告できます。なお、希望した「特定課題セッション」で不採択の場合、第2希望以下が選択されていない場合は「発表辞退」を希望するとみなします。

特定課題セッションの各内容は、次ページをご覧ください。

■ 発表時間

報告時間15分、質疑応答10分、総括コメント15分で、発表が5演題とすると、1分科会の合計は140分（2時間20分）となります。

2. ポスター発表

■ 応募方法と発表分野

「口頭発表」と同様となります。

■ 発表方法と時間

研究成果を「発表用パネル」に掲示することによって発表するものです。要旨集掲載原稿とは別に、説明文・図表・写真等の掲示物を作成して下さい。パネルの大きさや貼付時間についての詳細は、9月上旬頃に「大会ホームページ」へ掲載いたします。お手数ですが「大会ホームページ」で確認して下さい。

司会者は配置しません。発表者は指定された時間にポスターを掲示し、さらに指定された「質疑応答時間帯」（1時間）に必ずポスター前に待機して下さい。

3. 特定課題セッション

■ 応募方法

「口頭発表」と同様の形式でお申込み下さい。「特定課題セッション」で採択されなくても「口頭発表」の分科会で報告ができますので、第2希望と第3希望は発表分野の「1～18」（11頁参照）から選択して下さい。なお、「特定課題セッション」が不採択の場合に発表を取り下げたい方は、第1希望のみの記載で結構です。各セッションの「テーマ趣旨」については、「大会ホームページ」をご覧ください。

■ 特定課題セッションテーマとコーディネーター

○セッションⅠ：「相談援助としてのターミナル / グリーフケア

— 介護施設における一貫した看取りと送り—
大西次郎（武庫川女子大学）

○セッションⅡ：「児童虐待の実態と課題を考える — 市町村の役割を中心に」
加藤曜子（流通科学大学）

○セッションⅢ：「保育所保育におけるソーシャルワーク機能」
小口将典（関西福祉科学大学）

○セッションⅣ：「社会福祉士新カリキュラムにおける実習プログラミング
の課題と展望」
川島恵美（関西学院大学）

○セッションⅤ：「実習教育における障害学生支援の視点と方法」
太田晴康（静岡福祉大学）
※敬称略

■ 特定課題セッションへの採択

募集した特定課題に沿っているとコーディネーターが判断した研究発表の応募が3つ以上ある場合に「特定課題セッション」が成立します。2つ以下は不成立としセッションは実施しません。また、5つ以上の応募があった場合は、コーディネーターの判断で3または4報告に絞ります。不成立・不採択の研究発表は、口頭発表の分科会で報告することができます。採択の結果については、7月下旬までには、メールにて応募者の方にご連絡いたします。

■ 特定課題セッションの運営

コーディネーターによる特定課題の説明5分、報告者による発表15分、事実関係に関する質疑5分、休憩10分、共同討議45分、コーディネーターによる総括10分で、4報告が採択された場合、1セッションは合計150分（2時間30分）となります。

研究発表の要旨集掲載原稿 作成要領

■ 原稿の様式

原稿様式は、ホームページ（<http://www.gakkai.ne.jp/jsssw/60/>）にアクセスし、応募ページからWordファイルをダウンロードして、ご自身のパソコンに取り込んで下さい。そのWord形式のまま原稿を作成（上書き）して、オンラインで申込みをして下さい。

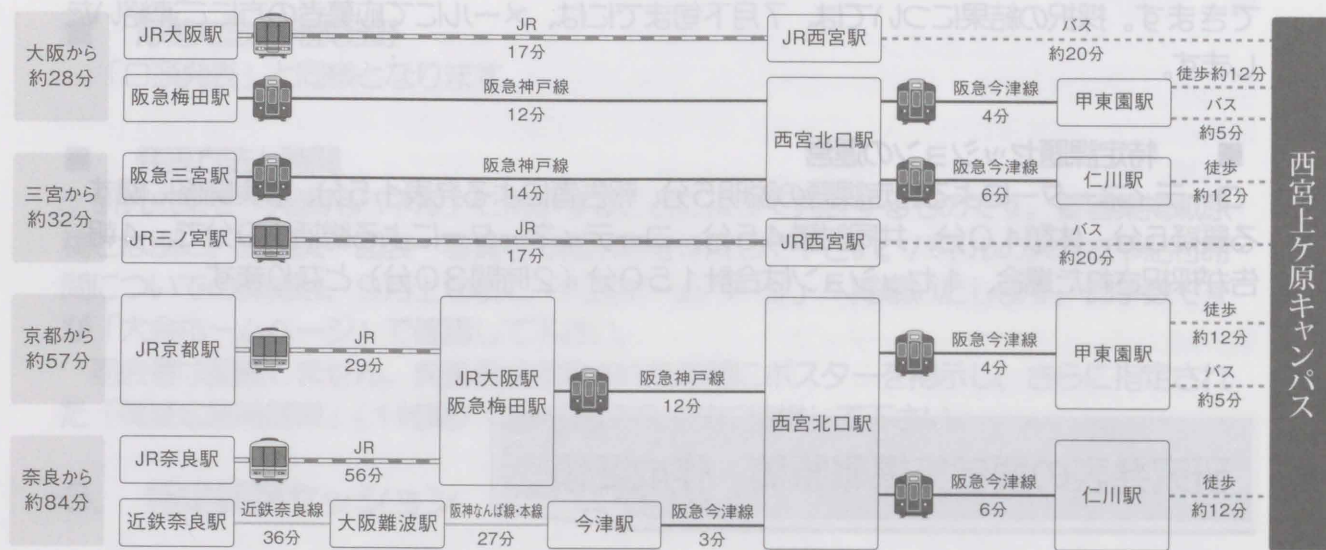
- 用紙サイズ・枚数は、1発表につき、A4判2ページの横書きです。厳守して下さい。
- 本冊子16ページ～17ページの「研究発表 原稿様式」のとおり作成して下さい。
- 余白を、上下左右 各25mmあけて下さい。
- ポスター発表の応募者の方は、16ページの様式のとおり、「表題・発表者欄」の最上段左端に【ポスター発表】（9ポイント明朝）と記入して下さい。

■ 原稿に記述する事項

- 本冊子16～17ページの「研究発表 原稿様式」のとおり、[テーマ、発表者全員の氏名・所属・会員番号（主発表者には○を付ける）、キーワード3つ]を「上部の枠内」に明記して下さい。
- 本文の項目は、[研究目的、研究の視点及び方法、倫理的配慮、研究結果、考察]の5つにして下さい。
- 事例等の記述にあたっては、プライバシーの保護、関係者の承諾等、学会の「研究倫理指針」に従って下さい。人名、地名、職場名、学校名等の固有名詞は使用せず、A県、B市、Cさん、D施設などと表記し、実際のイニシャルは使用しないで下さい。
- 調査を伴わない文献研究の場合でも、すべての要旨には、必ず本冊子18ページ～19ページの「研究倫理指針」で確認して、配慮の内容（日本社会福祉学会の「研究倫理指針」に基づき配慮したこと）を記載して下さい。記載が不十分な場合や記述がない場合、採択されないことがあります。

会場へのアクセス

■ 主要駅からのアクセス



■ 最寄り駅からのアクセス



阪急電鉄今津線「甲東園駅」→「仁川駅」より徒歩約12分
阪急電鉄今津線「甲東園駅」より阪急バスで「関西学院前」下車(約5分)

キャンパス内に駐車場はございませんので、公共交通機関をご利用下さい。
なお、移動に制約のある方で、お車でご来校予定の方は大会事務局まで事前にご連絡下さい。
路線図は裏表紙に記載されています。

宿泊施設

■ 宿泊施設の手配について

- 前回第59回大会では、旅行代理店を通しての宿泊施設の手配の利用がほとんどなかったことから、本大会では、大会事務局として、宿泊施設の手配をすることはしないこととしましたので、ご了承ください。
- 誠におそれいりますが、宿泊につきましては、各ホテル、観光協会や各種旅行代理店のHPなどをご参照いただき、ご自身での手配をお願いいたします。
- なお、会場である関西学院大学のある西宮市周辺には、宿泊施設があまり多くありません。ただし、関西学院大学は、大阪と神戸のちょうど真ん中あたりに位置するので、ホテルが多くある大阪・梅田駅や神戸・三宮駅からは、大学の最寄り駅である阪急甲東園駅まで30分程度で行くことができます。宿泊については、大阪・梅田駅や神戸・三宮駅周辺を利用されることをお勧めします。
- 参考までに、大会会場近隣の宿泊施設等の一部を下記の通り、ご紹介しておきます。下記のリストは、あくまでも宿泊施設の一部の紹介であり、他にも数多くのホテルがありますので各自でご確認ください。また、大会事務局の方では宿泊の手配をしないこととさせていただきます。

■ 大会会場近隣の主なホテル・リスト

エリア	ホテル名	住所	電話番号
宝塚	宝塚ホテル	宝塚市梅野町 1-46	0797-87-1151
宝塚	宝塚ワシントンホテル	宝塚市栄町 2-2-2	0797-87-1771
甲子園	ノホテル甲子園	西宮市甲子園高潮町 3-30	0798-48-1111
梅田	大阪第一ホテル	大阪市北区梅田 1-9-20	06-6341-4411
梅田	大阪新阪急ホテル	大阪市北区芝田 1-1-35	06-6372-5101
梅田	新阪急ホテルアネックス	大阪市北区芝田 1-8-1	06-6375-4685
梅田	ホテルグランヴィア大阪	大阪市北区梅田 3-1-1	06-6344-1235
神戸	神戸東急イン	神戸市中央区雲井通 6-1-5	078-291-0109
神戸	三宮ターミナルホテル	神戸市中央区雲井通 8-1-2	078-291-0001
神戸	神戸ポートピアホテル	神戸市中央区港島中町 6-10-1	078-302-1111

日本社会福祉学会 研究倫理指針

第1 総則

(目的)

1. 日本社会福祉学会は、社会福祉学の研究に携わる会員の研究における知的誠実さを涵養し、研究の倫理的なあり方を示し、かつ研究過程および結果の公表にまつわる紛争における解決のあり方を示すために、本指針を定める。

(遵守義務)

1. 日本社会福祉学会会員は、研究過程および結果の公表にあたって、良識と知的誠実さと倫理が要請されることを自覚し、本指針に則って行動しなければならない。
2. 日本社会福祉学会会員は、研究者として、常に最新の研究法に関する知見を探求し、使用しなければならない。
3. 日本社会福祉学会会員は、研究者として、常に最新の先行業績を探求し、自己の研究水準の向上に努めなければならない。

第2 指針内容

A 引用

1. 研究は、先行業績の上に新たな知見を積み重ねることである。従って、先行業績の検討に際しては、自説と他説とを峻別することが重要であり、これを怠ると盗作もしくは剽窃として最も重大な倫理違反の一つとなることを強く自覚しなければならない。
2. 他説の引用は厳格であるべきであり、既に古典となった場合を除き、原著者名・文献・出版社・出版年・引用箇所を明示しなければならない。
3. 長文に渡る引用、図表の転載等の場合は、原則として、原出版社もしくは原著者からの承諾を得るべきである。
4. 引用は出来る限り原典主義を貫くべきであり、原典が入手できない等の止むを得ない場合のみ、いわゆる「孫引き」が許される。

B 事例研究

5. 自験例（1例もしくは少数例）の事例および社会福祉実践の既存データを活用して研究する場合は、対象者（当事者）を特定できないように匿名化して使用しなければならない。その際、事例に加工が加えられている場合はその旨を表示しなければならない。
6. 当事者から実名公表の承諾を文書で得ている場合にはその旨が明示されなければならない。
7. 自験例の事例を使用する場合、あるいは口頭発表する場合は、前もって当事者から文書で承諾を得ることを原則とする。
8. 他験例の事例を使用する場合は、「引用」における規定が適用される。

C 調査

9. 調査を実施する際に、必要がある場合には、調査対象者・地域・団体等の匿名性が守らなければならない。
10. 調査用紙（質問紙）の文言は、対象者の名誉やプライバシー等の人権を侵害するものであってはならない。
11. 調査結果を改竄してはならない。
12. 調査研究の過程では、その手続き過程が詳細に示されなければならない。
13. 調査用紙（質問紙）および結果データは開示要求に対応すべく、最低5年は保存されなければならない。
14. 他者が行った調査で使用された調査用紙（質問紙）の全部または一部を使用する場合には、その旨を明示しなければならない。

D 書評

15. 書評は、発行された研究業績の評価を含むものであるから、評者は全文を読了した上で公正・客観的に批評しなければならない。
16. 書評は、著者の人格を傷つけるものであってはならない。
17. 書評に対して、著者からの要求があった場合には、その反論が許されなければならない。

E 査読

18. 投稿された研究業績の査読を行う過程において、著者と査読者の双方の匿名性が保持されなければならない。
19. 査読は、投稿された研究業績の評価を含むものであるから、査読者は全文を読了した上で、公正・客観的に評価を行い、かつ指摘する内容が明確でなければならない。
20. 査読は、著者の人格を傷つけるものであってはならない。
21. 査読結果に対して、著者から要求がある場合には、その反論が許されなければならない。

F 二重投稿・多重投稿

22. 原著の投稿、あるいは公表については、二重（多重）に行ってはならない。
23. 投稿あるいは公表した原著を本学会において発表する場合は、内容の一部変更・追加などの箇所を明示しなければならない。
24. 一連の連続投稿をする場合には、前著と同一でない旨を明示しなければならない。

G 学会発表

25. 学会で発表する場合は、その内容が時代の先端にあるか、独自性があることの自覚のもとで行わなければならない。
26. とりあえずエントリーしておき、発表の準備が間に合わない時にキャンセルするようなことはしてはならない。
27. 相当数の発表時間を多数の研究参加者が第一発表者の名前を次々と代えて使用し、その会場を仲間独占するような発表は、慎むべきである。
28. シンポジウムや個人発表等において、自分の割り当て時間を延長することは、厳に慎まなければならない。
29. 固有な事例・調査等に基づく発表については、【事例研究】【調査】の項に従う。

H 研究費

30. 外部資金（研究費）を導入して研究する場合には、その会計を明瞭にし、研究目的に合致した予算、予算に合致した使用、流用のある場合の理由の明示、支出に関する領収書などの証拠書類の整理保存に努め、その使用が不正なものであってはならない。
31. 研究費の供与機関および導入機関の定める執行規程を遵守しなければならない。

I 差別的表現とされる用語や社会的に不適切とされる用語

32. 研究業績を著書・論文・口頭等で発表する場合に、研究目的を外れて社会的に不適切と考えられる用語を使用してはならない。ただし、引用文中の語についてはこの限りではないが、その旨を明示しなければならない。
33. 研究者は、差別的表現とされる用語や社会的に不適切とされる用語であるかに関して理解を深めなければならない。

J 共同研究

34. 共同研究の組織化に当たっては、その成員は研究目的に合致した専門領域の者でなければならない。
35. 共同研究の組織の運営および会計は民主的になされなければならない。構成員の一部に過重な負担をかけたり、不明朗であってはならない。
36. 共同研究の成果の発表にあたっては、構成員は研究過程と成果への貢献に応じた取り扱いをうけるべきである。

K アカデミック・ハラスメント

37. 大学内・研究所内あるいは上記の共同研究組織において、上位の権限・権威・権力を持つ者がそれを行って、下位の者に対して、研究・教育・資格付与・昇進・配分等において不当な差別を行ったり、不利益を与えてはならない。
38. 研究者は、対象を特定し、もしくは特定せずに、不当な中傷を行ってはならない。

付則

1. この指針は2004年10月10日より施行する。

日本社会福祉学会 研究発表要目

18 日本社会福祉学会の活動と今後の展望

19 日本社会福祉学会の活動と今後の展望

20 日本社会福祉学会の活動と今後の展望

21 日本社会福祉学会の活動と今後の展望

22 日本社会福祉学会の活動と今後の展望

23 日本社会福祉学会の活動と今後の展望

24 日本社会福祉学会の活動と今後の展望

25 日本社会福祉学会の活動と今後の展望

26 日本社会福祉学会の活動と今後の展望

27 日本社会福祉学会の活動と今後の展望

28 日本社会福祉学会の活動と今後の展望

29 日本社会福祉学会の活動と今後の展望

30 日本社会福祉学会の活動と今後の展望

31 日本社会福祉学会の活動と今後の展望

32 日本社会福祉学会の活動と今後の展望

33 日本社会福祉学会の活動と今後の展望

34 日本社会福祉学会の活動と今後の展望

35 日本社会福祉学会の活動と今後の展望

36 日本社会福祉学会の活動と今後の展望

37 日本社会福祉学会の活動と今後の展望

38 日本社会福祉学会の活動と今後の展望

39 日本社会福祉学会の活動と今後の展望

40 日本社会福祉学会の活動と今後の展望

41 日本社会福祉学会の活動と今後の展望

42 日本社会福祉学会の活動と今後の展望

43 日本社会福祉学会の活動と今後の展望

44 日本社会福祉学会の活動と今後の展望

45 日本社会福祉学会の活動と今後の展望

46 日本社会福祉学会の活動と今後の展望

47 日本社会福祉学会の活動と今後の展望

48 日本社会福祉学会の活動と今後の展望

49 日本社会福祉学会の活動と今後の展望

50 日本社会福祉学会の活動と今後の展望

51 日本社会福祉学会の活動と今後の展望

52 日本社会福祉学会の活動と今後の展望

53 日本社会福祉学会の活動と今後の展望

54 日本社会福祉学会の活動と今後の展望

55 日本社会福祉学会の活動と今後の展望

56 日本社会福祉学会の活動と今後の展望

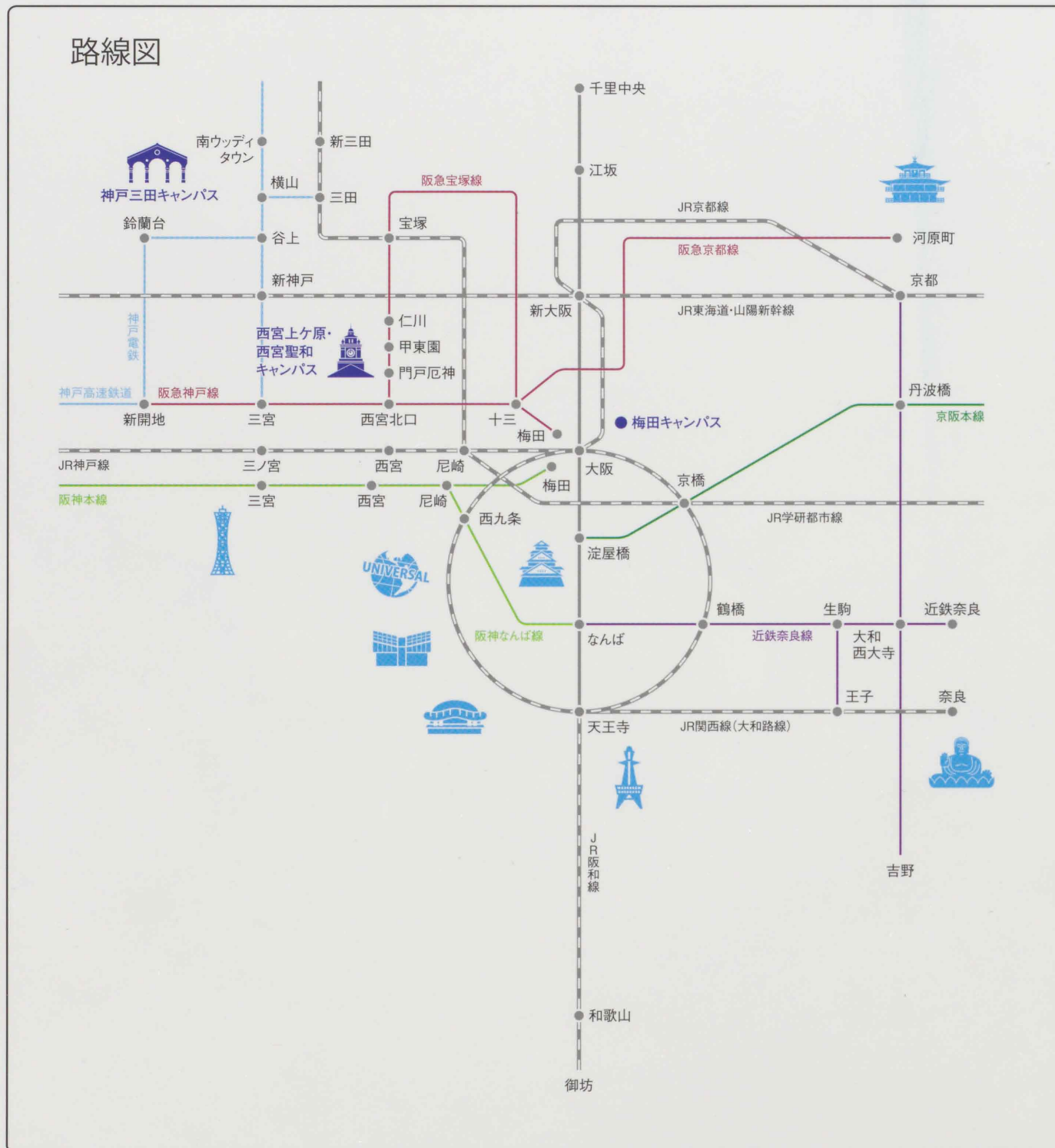
57 日本社会福祉学会の活動と今後の展望

58 日本社会福祉学会の活動と今後の展望

59 日本社会福祉学会の活動と今後の展望

60 日本社会福祉学会の活動と今後の展望

路線図



日本社会福祉学会 第60回秋季大会

関西学院大学 〒662-8501 兵庫県西宮市上ヶ原一番町 1-155